

## 1. 学校の概要、目的及び計画

### 横浜YMCA学院専門学校の沿革

横浜YMCAは1884年10月に「青雲の志」に燃えるヘボン博士の弟子たち青年4人により組織されました。彼らは日本で初めて建てられたプロテスタントの教会である横浜海岸教会の青年たちでした。

YMCAの専門学校は1903年に本格的な学校として設立された「横浜基督教青年会私立英語学校」が、その前身となりました。英語・体育そして職業教育はYMCAの歴史の中では常に重要な柱でした。1916年には日本では初めてYMCAが本格的な室内体育館をつくり全国へ体育を広め、バスケットボール、バドミントンなど西洋にルーツをもつ多くのスポーツはYMCAを経由して日本全国に伝えられました。

その後、主に商業実務分野や文化教養分野において時代や社会の必要とする人材養成を続けてきました。近年、福祉系の人材養成や福祉事業を展開する中で、作業療法士へのニーズの高まりを感じるとともに、真の意味でホスピタリティあふれる人材が求められている状況をみて、作業療法科を設置いたしました。

現在、商業実務系・文化教養系・福祉系・医療系・体育系などを含んだYMCA専門学校は北海道から沖縄まで全国で21校が学習指導・進路指導を一体化させた教育を行ない、全国的なネットワークを生かして就職指導、進路指導を展開しています。

### 本校の基本聖句

「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイによる福音書25章40節）

### 本校の教育理念

横浜YMCAはキリスト教団体として、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざして、「横浜YMCA－私たちの使命」を制定いたしました。

横浜YMCAが運営する専門学校においても、学校そのものがこの使命を追求していきます。同時に学生自身が「横浜YMCA－私たちの使命」に共感し、実践できる人材として成長できるよう援助し、その専門分野において十分な貢献を果たすことができ、また地域社会、ひいては広く世界の「平和と公正」に寄与できる人材を養成します。

### 横浜YMCA－私たちの使命

横浜YMCAに連なる私たちは、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指し、地域社会に深く根ざしてすべての活動を展開します。

1. 異なった文化、民族、思想、信条を尊重し、ともに助け合って生きていく世界を築くことにつとめます。
2. 愛と奉仕の実現のためにボランティア精神をつちかい、人々に仕え、共に助

け合って生きていく世界の実現につとめます。

3. 神によって与えられたすべての自然の生命と人間の生命を大切にし、共生していき世界を築くことにつとめます。
4. 人々の間に自由、平等、正義が尊重され、差別や貧困のない平和な世界を作り出すために共に力を合わせて働くことにつとめます。
5. 世界の人々と積極的に交流し、協力しあい、分かち合い、人間性の尊ばれる地球社会をつくり出していくことにつとめます。

#### 作業療法科教育目標

1. 真のホスピタリティ・マインドを身につけた作業療法士をめざします。

ホスピタリティとは、互いの命や存在意義を理解し、認め合い、共に生きていくこと、またそれを実践する精神をいいます。ですから、一方がサービスを受ける人、あるいは、リハビリを提供する人という機能的な考え方や態度に終わるものではありません。共に生きていくということ、人間として相互に理解し共感する態度こそ必要であると考えます。私たちは、このような価値観、人間観を持つ作業療法士を養成したいと願っています。

このホスピタリティ・マインドを養成するため「キャラクター・デベロップメント（人格の向上）」に取り組みます。

人間形成に必要とされる価値は様々ですが、その中でもYMCAは中心となる価値、*Caring*（思いやり）、*Honesty*（誠実さ）、*Responsibility*（責任感）、*Respect*（尊敬心）が大切であると考えています。これらは、目新しいものではありませんが、人間の形成に関わる普遍的なものとして取り組んでいきます。

2. 高い専門的知識と臨床での能力を養います。

リハビリテーションや作業療法に関する研究や取り組みは日々進歩しています。最新の研究成果を授業に組み込むとともに、また常に現場での臨床を意識した授業を行います。同時に国家試験対策もさまざまな授業法をとりながら実施します。

またその基礎となる一般教育と専門基礎分野は、真の専門性を身につける上で欠かせないものです。専門分野や国家試験との連関を十分にとりながら展開します。

臨床実習では、現場の実習指導者と緊密な連携を保ちつつ、実習中の指導はもとより、実習前・後の指導も十分に行い、即戦力となれる能力を養います。

3. 日本にとどまらず、世界で通用する人材を育成します。

国内で通用するだけでなく、世界で通用する人材を養成するため、カリキュラム内容も世界基準を意識したものを展開します。

また、YMCAのワールドネットワークを使った海外研修や海外ボランティアの機会を提供します。

<学校名、校長名、所在地>

学校名 横浜YMCA学院専門学校  
校長 生井 知三  
所在地 神奈川県横浜市中区常盤町1-7  
連絡先 TEL 045-641-5785  
FAX 045-664-4018

<学校の沿革、歴史>

1976年（昭和50年） - 横浜YMCA学院が専修学校として認可

1990年（平成2年） - 日本語科開設

1996年（平成8年） - YMCA語学・ビジネス専門学校に校名変更

2002年（平成14年） - YMCA語学・ビジネス専門学校を横浜YMCA学院専門学校に校名変更

2002年（平成14年） - 作業療法科開設

2015年現在、横浜YMCA学院専門学校は作業療法科と日本語学科、国際情報ビジネス科が併設

## 2. 学科の教育

### ＜入学者数、収容定員、卒業・評価の基準＞

入学者数 2019年4月 11名

収容定員 1学年40名 収容定員160名

卒業生数 2018年度卒業生 11名

就職 2018年度生 100%

作業療法士国家試験合格率（現役生）90%

就職先進路 合力の里、北斗病院、屏風ヶ浦病院、介護老人保健施設ほのぼの、葛西昌医会病院、北小田原病院、市が尾カリヨン病院、新戸塚病院、大和病院、イムス板橋リハビリテーション病院、杜都千愛病院、鶴巻温泉病院、横浜相原病院、医誠会病院、沼津リハビリテーション病院、初台リハビリテーション病院、総合相原更生病院、横浜市中部地域療育センター、湘南鎌倉総合病院、千曲中央病院、横浜市立大学附属病院市民総合医療センター、神奈川県リハビリテーション病院、横浜丘の上病院、帯広ケアセンター、上白根病院、みどり野リハビリテーション病院、川崎協同病院、海老名メディカルサポートセンター、大内病院、聖テレジア病院、中央林間緑野病院、東京労災病院、富士温泉病院、榛名病院、海老名総合病院、柏メンタルクリニックデイケア、藤沢病院、七沢リハビリテーション病院脳血管センター、伊豆病院、介護保健老人施設ぬるみず、クローバーホスピタル、鶴川さくら病院、沼津千本病院、老人介護保健施設ウェルファー、向陽台ホスピタル、中伊豆リハビリテーションセンター等

＜カリキュラム・時間割・年間授業計画＞

(別表) 作業療法科教育課程及び授業時数

分野:医療分野 学科:作業療法科

区分	教育内容	科目	履修方法	授業形態	単位数	期	開講時間	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	哲学	必修	講義	2	前期	30	30							
		心理学	必修	講義	2	後期	30		30						
		キリスト教	必修	講義	3	通年	45	30	15						
		社会学	必修	講義	2	前期	30	30							
		基礎科学	必修	講義	4	通年	60	30	30						
		生命科学	必修	講義	4	通年	60	30	30						
		情報科学	必修	演習	2	通年	60	30	30						
		ホスピタリティ論	必修	講義	2	前期	30	30							
		レクリエーション体育	必修	実技	2	通年	60	30	30						
		英語Ⅰ	必修	講義	4	通年	60	30	30						
		法学	必修	講義	2	後期	30		30						
		経済学	必修	講義	2	前期	30	30							
		社会福祉学	必修	講義	2	前期	30			30					
		英語Ⅱ	必修	講義	2	前期	30			30					
		倫理学	必修	講義	2	前期	30			30					
		統計学	必修	講義	2	後期	30							30	
		教育学	必修	講義	2	前期	30			30					
		生活環境論	必修	講義	2	前期	30						30		
		指定単位	14	小計	43		705	300	225	120			30	30	
		専門基礎分野	人体の構造と機能および心身の発達	人体の構造と機能	必修	講義	2	後期	30		30				
解剖学	必修			講義	16	通年	240	120	120						
生理学Ⅰ	必修			講義	4	通年	60	30	30						
生理学Ⅱ	必修			講義	2	後期	30		30						
運動学Ⅰ	必修			講義	4	通年	60	30	30						
生涯発達論	必修			講義	2	後期	30			30					
運動学Ⅱ	必修			講義	6	前期	90			90					
指定単位	12			小計	36		540	180	240	90	30				
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論		必修	講義	2	前期	30	30							
	内科学		必修	講義	2	前期	30		30						
	整形外科		必修	講義	4	通年	60		30	30					
	神経内科学		必修	講義	2	後期	30			30					
	精神医学		必修	講義	4	通年	60		30	30					
	小児科学		必修	講義	2	後期	30			30					
	リハビリテーション体育		必修	演習	1	後期	30			30					
	臨床心理学		必修	講義	2	前期	30			30					
	病理学概論		必修	講義	2	後期	30			30					
	リハビリテーション医学		必修	講義	2	集中	30			30					
	指定単位		12	小計	23		360	30		150	180				
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論	必修	講義	4	通年	60		30	30				
公衆衛生学		必修	講義	3	通年	45				30	15				
関係法規		必修	講義	2	後期	30							30		
指定単位		2	小計	9		135			30	30	30	15	30		
基礎作業療法学	作業療法概論	必修	講義	4	通年	60	30	30							
	基礎作業学実習A	必修	実技	1	後期	30		30							
	基礎作業学	必修	講義	4	通年	60			30	30					
	基礎作業学実習B	必修	実技	2	前期	60			60						
	基礎作業学理論	必修	講義	2	前期	30					30				
	作業療法学研究基礎Ⅰ	必修	講義	4	通年	60	30	30							
	作業療法学研究基礎Ⅱ	必修	演習	2	通年	60			30	30					
	指定単位	6	小計	19		360	60	90	120	60	30				

区分	教育内容	科目	履修方法	授業形態	単位数	期	開講時間	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
専門分野	作業療法評価学	身体障害の評価学Ⅰ	必修	講義	4	通年	60			30	30					
		身体障害の評価学Ⅱ	必修	講義	6	後期	90				90					
		身体障害の評価学Ⅲ	必修	講義	4	後期	60				60					
		精神障害の評価学	必修	講義	6	通年	90			60	30					
		発達障害の評価学	必修	講義	6	通年	90			30	60					
		指定単位	5	小計	26		390			120	270					
	作業治療学	身体障害の作業療法治療学Ⅰ	必修	講義	6	前期	90						90			
		身体障害の作業療法治療学Ⅱ	必修	講義	4	前期	60					60				
		身体障害の作業療法治療学Ⅲ	必修	講義	2	後期	30							30		
		身体障害の作業療法治療学Ⅳ	必修	講義	3	前期	45						45			
		老年期の作業療法治療学	必修	講義	4	前期	60						60			
		発達障害の作業療法治療学Ⅰ	必修	講義	4	前期	60						60			
		発達障害の作業療法治療学Ⅱ	必修	講義	4	後期	60							60		
		精神障害の作業療法治療学Ⅰ	必修	講義	4	前期	60						60			
		精神障害の作業療法治療学Ⅱ	必修	講義	4	後期	60							60		
		作業療法治療学演習Ⅰ	必修	演習	2	通年	60						30	30		
		作業療法治療学演習Ⅱ	必修	演習	2	後期	60							60		
		作業療法学研究A	必修	演習	6	集中	180								180	
		作業療法学研究B	必修	演習	5	集中	150								150	
		指定単位	20	小計	50		975							405	240	180
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	必修	講義	2	後期	30					30				
		地域作業療法学Ⅱ	必修	講義	4	前期	60						60			
		地域作業療法学演習	必修	演習	2	後期	60							60		
		指定単位	4	小計	8		150					30	60	60		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	必修	実習	1	集中	45					45				
		臨床実習Ⅱ	必修	実習	6	集中	270							270		
		臨床実習Ⅲ	必修	実習	8	集中	360								360	
		臨床実習Ⅳ	必修	実習	8	集中	360								360	
		指定単位	18	小計	23		1,035					45		270	360	360
	その他の	ホームルーム	セミナー	必修	講義	16	通年	240	30	30	30	30	30	30	30	30
保育実習			必修	実習	1	集中	45			45						
			小計	17		285	30	30	75	30	30	30	30	30		
					合計	254		4,935	600	585	705	675	585	645	570	570

指定単位数	93
-------	----

	前期	後期	総時間数
1年次総時間数	600	585	1,185
2年次総時間数	705	675	1,380
3年次総時間数	585	645	1,230
4年次総時間数	570	570	1,140
総時間数	2,460	2,475	4,935

時間割例（1年生 前期）

時限	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	9:15～10:45	生理学 I	解剖学	心理学	解剖学	ホスピタリティ 論
2時限	11:00～12:30	社会学		レクリエーション 体育		英語 I
3時限	13:15～14:45		セミナー	リハビリテー ション概論		医学概論
4時限	15:00～16:30	作業療法論	生命科学	キリスト教学	哲学	情報科学
5時限	16:40～18:10		基礎科学			

(年間計画)

前期：4月1日～9月30日、後期：10月1日～3月31日（学年始め：4月1日）

夏季休業：8月10日～8月18日、冬季休業：12月29日～1月5日

学年末：3月31日

(進級・卒業の要件および評価基準)

評価基準

1. 授業科目の時間数の70%以上、実習科目の場合は85%以上の出席がない場合には単位の認定をしない。
2. 授業科目の単位認定は試験（卒業論文を含む）の成績及び平素の学習状況を総合評価し、合格した者に与える。
3. 成績評価はA（優 100点から80点）、B（良 79点から70点）、C（可 69点から60点）及びD（不可 59点以下）とし、C（可）以上を合格とする。
4. やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった生徒は所定の手続きにより追試験を行う。
5. 定期試験の評価が6割未満の科目については所定の手続きにより再試験を行う。
6. 再試験の履修認定は6割以上の成績をもって認定する。

進級基準

成績評価に基づき、成績判定会議を経て、所定の単位を取得した生徒が進級する。

卒業基準

各学年の教育課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験等により認定を行い、生徒が所定の全教育課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。

### 3. 教職員

#### ○三浦美紀（学科長・1年担任）

担当：発達障害の作業療法評価学・治療学 等

プロフィール

学歴：国立仙台病院附属リハビリテーション学院  
作業療法学科卒業

日本女子大学家政学部児童学 卒業

職歴：神奈川県立ゆうかり園 等

所属団体：（社）日本作業療法士協会

資格・免許：作業療法士、小学校一種免許

#### ○宮田 千恵子（4年担任）

担当：基礎作業学、精神障害の作業療法治療学 等

プロフィール

学歴：昭和大学大学院 保健医療学研究科 卒業

職歴：公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 うしおだ診療所 精神デイケア 他

所属団体：（社）日本作業療法士協会、（社）神奈川県作業療法士協会、うつ病作業療法研究会

資格・免許：作業療法士

#### ○坂本俊夫（2年担任）

担当：身体障害の作業療法評価学・治療学、老年期作業療法治療学 等

プロフィール

学歴：弘前大学医療技術短期大学卒業、武蔵野大学大学院通信教育学部 人間学  
研究科在籍中

職歴：横浜市立脳血管医療センター 等

所属団体：（社）日本作業療法士協会

資格・免許：作業療法士、日本作業療法士協会認定作業療法士、福祉住宅環境コーディネーター

#### ○高橋博美（3年担任）

担当：精神障害の作業療法評価学・治療学 等

プロフィール

学歴：国立診療所箱根病院附属リハビリテーション学院卒業



東洋大学文学部教育学科卒業

職 歴：信田病院 等

所属団体：(社) 日本作業療法士協会、精神科作業療法協会

資格・免許：作業療法士

○名古屋和茂

担当：身体障害の評価学・治療学 等

プロフィール

学 歴：社会医学技術学院（OT科）卒業

職 歴：麻生リハビリ総合病院 等

所属団体：(社) 日本作業療法士協会

資格・免許：作業療法士、介護支援専門員、AMPS 評価者認定

○遠藤 陵晃（1年副担任）

担当：身体障がいの評価学・地域作業療法学・基礎作業学実習 等

プロフィール

学 歴：茅ヶ崎リハビリテーション専門学校卒業、

職 歴：在宅療養支援病院 クローバーホスピタル

所属団体：(社) 日本作業療法士協会

資格・免許：作業療法士

○その他

職員2名、嘱託1名、パート1名

4. キャリア教育・実践的職業教育

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 作業療法学科)

授業科目名	臨床実習Ⅰ	授業時数又は単位数	45 時間
実施期間	実習：2019年1月21日～1月25日までの6日間 1日7.5時間 セミナー：2019年1月15日～1月18日と1月28日～2月1日 ※1日6時間		
実習・演習等の目的及び概要	実習施設を通して、これまでの学内の授業をもとに作業療法の理解を深めるとともに、学生自身の判断に基づいた主体的な行動を経験し、学生自身に求められている行動とその結果を考える機会とする。そのため少人数（1～2人）での実習とする。また、作業療法士を目指す学生として作業療法士への目的意識を再確認し、今後の学習や経験に向けてのモチベーション作りとしての機会とする。実習前後の週は、準備と整理・まとめの期間とする。		
企業等との連携の基本方針	作業療法士が勤務している場所である一般病院、精神病院、老人保健施設、発達施設等の施設を選定している。また、施設には4年以上の経験を持つ指導者がいるところを選定している。1施設にあたり、1～2名の学生が1人以上の指導者から指導を受けるよう依頼している。		
企業等との連携内容	1施設6日間という短い実習だが、作業療法の理解を深め、実習現場で期待される行動とコミュニケーションが経験できるよう、実習に関する手引きを通して、当校の方針を理解していただく。また、実習指導者からは記録の確認や言動の振り返りを原則毎日実施してもらい、学生に指導をしてもらう。実習の総合的な判断は最終日に評価表に記載を依頼し、その内容について学生と指導者とそれぞれ確認する。この評価表と学内に戻ってきたあとの体験発表の内容、課題となっている提出物等により総合的に担当教員が成績評価、単位認定を行う。		
学修成果の評価方法	社会人としての態度や学習に対する意欲、施設理解などそれぞれ4段階で判定してもらう。また、実習先での出席状況が85%を満たす必要がある。学内での判定は、体験発表の内容、発表態度、体験内容のレポート内容、セミナー内での学習態度から総合点数が6割を超えることが単位認定の条件である。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容		実施場所
2019年 1月15日～1月18日	プレセミナー（実習中の基本的態度や流れの確認）		学内
2019年 1月21日～1月25日	見学実習：見学・評価体験・記録・報告他		実習施設
2019年 1月28日～2月1日	ポストセミナー（体験発表、レポート提出等）		学内
連携する企業等	磯子中央病院、川崎協同病院、関東病院、北原リハビリテーション病院、クローバーホスピタル、湘南鎌倉総合病院、新戸塚病院、横浜保土ヶ谷中央病院、東京YWCAキッズガーデン、藤沢病院、北小田原病院		
			他計13施設

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目（実施要項の要件を満たすものに限ります。）毎に作成すること。

## 企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 作業療法学科)

授業科目名	臨床実習Ⅱ	授業時数又は単位数	270 時間
実施期間	実習：2018年11月5日～11月24日 と 2018年12月3日～12月22日 各3週 1日7.5時間 セミナー：2018年11月26日～11月30日 と 2018年12月25日～12月28日 計9日間 1日6時間		
実習・演習等の目的及び概要	2年生での見学実習の経験の上に、本格的に対象者の方と関わる実習である。2施設で実習を行うことが必須である。内容的には、評価、治療計画の立案を1～数人の対象者の方に実施し、それをレポートにまとめる。それに加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験する。		
企業等との連携の基本方針	作業療法士が勤務している場所である一般病院、精神病院、老人保健施設、発達施設等の施設を選定している。また、施設には4年目以上の経験を持つ指導者がいるところを選定している。1施設に当たり、1～2名の学生が指導を受けられるよう依頼している。		
企業等との連携内容	実習に当たり指導者会議を実施し、事前に学生との顔合わせ、当校の実習方針について話し合う機会を設ける。施設において、情報収集・評価計画・評価実施・統合と解釈・目標（短期・長期）設定・計画立案を経験する。2施設それぞれで最低1症例以上は、臨床像を知り、全体像を把握し、指導を受ける。実習の判断は最終日に評価表を通してその内容について学生と指導者とそれぞれ確認する。この評価表の点数と学内に戻ってきたあとの症例検討内容、クラスメイトの症例を理解しようとする態度や提出物等により総合的に担当教員が成績評価、単位認定を行う。		
学修成果の評価方法	社会人としての態度、コミュニケーション力、評価の実施とその後のまとめ、倫理観や施設の把握という項目について、学生の自己評価を踏まえて指導者に評価してもらう。また、実習先での出席状況や学内に戻ってきたあとの体験発表の内容、課題となっている提出物等による総合判断が6割を超えることが単位認定の条件である。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
2018年 10月29日～11月1日	プレセミナー（実習中の基本的態度や流れの確認）	学内	
2018年 11月5日～11月24日	評価実習（Ⅰ期）：情報収集・評価計画・評価実施・記録・報告他	実習施設	
2018年 11月26日～11月30日	Ⅰ期ポストセミナー（体験内容まとめ、発表等）	学内	
2018年 12月3日～12月22日	評価実習（Ⅱ期）：情報収集・評価計画・評価実施・記録・報告他	実習施設	
2018年 12月25日～12月28日	Ⅱ期ポストセミナー（体験内容まとめ、発表等）	学内	
連携する企業等	新戸塚病院、甲府城南病院、青虎会 介護老人保健施設 あすなる、介護老人保健施設 なのはな苑、介護老人保健施設 ベルディーナ高田、福井記念病院、大倉山記念病院、平成横浜病院 他計14施設		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目（実施要項の要件を満たすものに限ります。）毎に作成すること。

## 企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 作業療法学科)

授業科目名	臨床実習Ⅲ・Ⅳ	授業時数又は単位数	360時間/360時間
実施期間	実習：2018年4月9日～2018年6月2日/2018年6月18日～8月11日/2018年8月27日～10月20日 各8週間 1日7.5時間 *この期間から2回 セミナー：2018年4月5日～4月6日 2日間 1日6時間 ※ポストセミナーは各実習終了後に実施 2018年6月4日～6月8日/2018年8月20日～8月24日/2018年10月26日～10月30日 計15日間 1日6時間		
実習・演習等の目的及び概要	3年間の学内授業、臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱの経験をもとに、作業療法の流れの全てを、対象者の方との関わりの中で実施する総合臨床実習である。内容は、作業療法評価、作業療法計画の立案、作業療法実施、再評価を実施する。加えて、社会人・専門職としての考え方や行動を学生として経験し、実践力を養うとともに、卒業後自立して作業療法が実施できるようになることを目標とする。		
企業等との連携の基本方針	作業療法士が勤務している場所である一般病院、精神病院、老人保健施設、発達施設等の施設を選定している。また、施設には4年以上の経験を持つ指導者がいることに加え、担当教員と指導者が学生指導について相談しやすい施設(実習生を多く取っている、卒業生が指導者である)を選定している。1施設あたり、1名の学生が指導を受けられるよう依頼している。		
企業等との連携内容	実習にあたり指導者会議を実施し、事前に学生との顔合わせ、当校の実習方針について話し合う機会を設ける。施設では各実習で最低1症例を担当し、情報収集・評価計画・評価実施・統合と解釈・目標(短期・長期)設定・計画立案・治療実施・再評価を経験し、実習指導者からは症例検討を通して、専門家としての考え方や言動についての振り返りを、原則毎日実施してもらう。機会があればカンファレンスに参加し報告するなど、他部門の方からの指導を受ける機会を設ける。実習の総合的な判断は中間時と最終日に評価表を通してその内容について学生と指導者とそれぞれ確認する。特に中間評価後はその内容を踏まえ言動が改善するよう指導を仰ぐ。この評価表の点数と学内に戻ってきたあとの症例検討内容、クラスメイトの症例を理解しようとする態度や提出物等により総合的に担当教員が成績評価、単位認定を行う。成績判定とは別に学内で作業療法について議論する機会を設け、専門家としての自覚を促す。		
学修成果の評価方法	社会人としての基本的な態度や作業療法の流れ、倫理、管理運営などそれぞれ5段階で判定してもらう。また、実習先での出席状況が85%を満たす必要がある。学内での判定は、症例検討の内容、発表態度、症例レポート内容、セミナー内での学習態度から総合点数が6割を超えることが単位認定の条件である。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
2018年 4月5日～4月6日	プレセミナー(実習中の基本的な態度や作業療法の流れなどの確認)	学内	
1期 2018年 4月9日～6月2日	総合実習：情報収集・評価計画及び実施・治療実施・記録・報告他 *この期間に2回	実習施設	
2期 2018年 6月18日～8月11日			
3期 2018年 8月27日～10月20日			
1期 2018年 6月4日～6月8日	ポストセミナー(症例レポートの作成及び発表、症例レポート提出など)	学内	
2期 2018年 8月20日～8月24日			
3期 2018年 10月26日～10月30日			
連携する企業等	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、イムス横浜狩場脳神経外科病院、鎌倉リハビリテーション病院、聖テレジア病院、上白根病院、川崎協同病院 他 計27施設		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限り)毎に作成すること。

## 企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 作業療法学科)

授業科目名	臨床実習Ⅲ・Ⅳ	授業時数又は単位数	720 時間
実施期間	2018年4月9日～6月2日/2018年6月18日～8月11日/2018年8月27日～10月20日 *この期間で2回		
実習・演習等の目的及び概要	この実習は、3年間の学内授業、見学実習、評価実習の経験をもとに、作業療法の流れの全てを、対象者の方との関わりの中で実施する総合臨床実習である。内容は、作業療法評価、作業療法計画の立案、作業療法実施、再評価を患者様に実施する。加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験し、実践力を養うとともに、卒業後自立して作業療法が実施できるようになる。作業療法士養成過程の最終段階となる。		
企業等との連携の基本方針	作業療法士が勤務している場所である一般病院、精神病院、老人保健施設、発達施設等の施設を選定している。また、施設には4年以上の経験を持つ指導者がいることに加え、担当教員と指導者が学生指導について相談しやすい施設(実習生を多く取っている、卒業生が指導者である)を選定している。1施設にあたり、1名の学生が指導を受けられるよう依頼している。		
企業等との連携内容	臨床実習施設において、情報収集・評価計画・評価実施・統合と解釈・目標(短期・長期)設定・計画立案・治療実施・再評価を経験する。各実習で最低1症例を担当し、治療の実施、指導を受ける。機会があればカンファレンスに参加し報告する。実習前の週はプレセミナー、実習後の週はポストセミナーを開催する。ポストセミナーではそれぞれ担当した症例検討を報告し合い、作業療法について議論する機会を設ける。		
学修成果の評価方法	実習先での出席状況と指導者による成績表記載内容、学内に戻ってきたあとの体験発表の内容、課題となっている提出物等による総合判断		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
2018年 4月5日～4月6日	プレセミナー(実習中の基本的な態度や作業療法の流れなどの確認)	学内	
1期 2018年 4月9日～6月2日	総合実習:情報収集・評価計画及び実施・治療実施・記録・報告他 *この期間に2回	実習施設	
2期 2018年 6月18日～8月11日			
3期 2018年 8月27日～10月20日			
1期 2018年 6月4日～6月8日	ポストセミナー(症例レポートの作成及び発表、症例レポート提出など)	学内	
2期 2018年 8月20日～8月24日			
3期 2018年 10月22日～10月26日			
連携する企業等	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、イムス横浜狩場脳神経外科病院、鎌倉リハビリテーション病院、聖テレジア病院、上白根病院、川崎協同病院、きせがわ病院、日本鋼管病院、青虎会 フジ虎ノ門整形外科病院、東京労災病院 他 計27施設		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

### 4年生・就職活動年間予定表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己分析	[活動期間]											
職場研究	[活動期間]											[活動期間]
エントリー開始		[活動期間]										[活動期間]
見学・訪問		[活動期間]							[活動期間]			[活動期間]
学内説明会							[活動期間]					
履歴書作成		[活動期間]										[活動期間]
筆記試験		[活動期間]							[活動期間]	[活動期間]		[活動期間]
面接試験		[活動期間]							[活動期間]	[活動期間]	[活動期間]	[活動期間]
内定										[活動期間]	[活動期間]	[活動期間]

※上記表はあくまでも目安です。1・2月は国家試験直前のため、積極的な活動は控えることをお勧めしています。

※ [活動期間] は、国公立及び大学病院付属施設への受験を希望する方の活動期間です。

※ 施設によっては筆記試験を実施する事があります。内容は一般常識テストや、基礎学力テスト等です。面接試験はほとんどの施設で実施されており、個別面接や集団面接、グループワーク面接などが行われています。

※ 学内説明会は昨年度より実施しており、各施設が学内に来校し、施設ガイダンスを実施します。原則として該当学生は全員出席とします。

当校での就職活動は、学内推薦や教員推薦等は実施いたしませんので、就職先選びから内定までの道程を全て各自で実施していただきます。但し、学内では皆さんの就職先選びから、履歴書の作成、面接試験の練習など、さまざまな援助を行う予定です。

皆さんにとって、就職活動は自分の人生設計について考える機会でもあります。就職先選びから「何となく、働ければいい…」ではなく、自分はどのような作業療法士としてこれからの人生を切り拓くのか真剣に考えてみましょう。これからの理想の作業療法士像や将来の夢を模索しながら、自分が希望する就職先からの内定を獲得するまで、強い意志と熱意を持って取り組んで欲しいと思います。

<p>4 月 ①</p>	<p>オリエンテーションー就職活動のための自己理解 自己分析とは何？／自己評価と他者評価／自己分析の進め方</p>
	<p>自己分析と整理 自分のことを正しく理解するのは就職活動の第一歩。あなた自身の価値観にあった職場や、あなたらしさを活かせる就職先選びをしていくためにも必須条件です。あなたの強みを確認しましょう。 自己理解フローチャート作成／過去の経験から志望動機までの流れ 自分を表現してみよう／自己紹介演習・自己表現のすすめ</p>
<p>4 月 ②</p>	<p>領域の発見、いろいろな施設の見見 どんな領域が自分に向いているか、どんな施設が自分にあっているか。さまざまな施設について調べて自分の条件と照らし合わせてみましょう。 自己分析結果の利用法／就職にあたっての理想と現実／条件の洗い出し</p>
	<p>施設・領域研究の方法 どんな施設が自分にあっているか、どんな領域が自分に向いているか。人生プランと照らし合わせて各領域のなかから、自分に適した就職先を選びましょう。(研究は10月まで！) 施設の種類、領域の種類の確認／条件の洗い出しとの検証</p>
<p>6 月 ③</p>	<p>履歴書での自己表現 履歴書は、職場に提出するあなたの基礎資料です。各項目の記入方法を学びます。 一貫性のある内容／説得力ある話題</p>
	<p>自己紹介と自己PRレッスン 自分をプレゼンテーションする文章の作成を行います。話の材料別に、どう展開するか考えるとともに、アピール力を身につけましょう。 自分らしさを書いて伝える基本演習／エピソードから自分らしさへつなげる</p>
	<p>履歴書での自己表現 多様な項目を企画書のような自己アピール・テクニックが必要です。 自己表現の自己分析活用法／記述の基本ルール／構成と展開のつくりかた／読みやすい、分かりやすい文章づくり／経験・感想など単純で抽象的な記述からの脱却／手紙・封書の書き方</p>
<p>10月 ④</p>	<p>面接自己表現の基本編 自分自身をプレゼンテーションする最大の手段としての面接試験。入退室の仕方や、面接での立ち居、振る舞いかたを、実際に、みなさん全員にやっていただきます。それによって、自分の思いもよらぬ欠点が見つかりました。 入室時の第一印象／自己PRと志望動機の伝え方／さまざまな質問への対処法／入退室と立居振舞／自己紹介の仕方／全体的な面接の流れの把握</p>
<p>11 月 ⑤</p>	<p>内定者、卒業生による「就職活動体験発表会」 「どんな就活をして、内定を得たか」1年上の先輩の話。「学生時代に想像した仕事と、いまの現実」何年か上の先輩社会人の話。 エントリー／筆記／面接／その他、実際の体験談を披露</p>

11月	学内施設説明会(ガイダンス)
～12月	次年度の求人を出している施設が、学内でそれぞれの施設について学生に向けて約45分間説明を行います。その後の質疑応答の時間では、学生が関心ある施設について、スタッフの方から直接話を聞くことができます。
11月～	面接自己表現の応用編
⑥	<p>面接でなされる様々な質問は、そのほとんどが「志望動機」「自己PR」「作業療法士として働く熱意」の確認です。質問者が見たい・知りたい職業人としてのポイントを理解し、身だしなみから振る舞い、コミュニケーション力すべてを活用しましょう。まずは本番への準備が必要です。面接試験の実践に向け模擬体験を通して練習しましょう。</p> <p>集団面接・グループワーク面接・圧迫面接への対応／こんなとき、どうする？</p>

※11月に予定している、内定者、卒業生による「就職活動体験発表会」は日程が決まり次第、お知らせします。

※11月～12月に予定している「学内施設説明会(ガイダンス)」は実施日未定です。決まり次第お知らせします。



## 5. 様々な教育活動・教育環境

### <学校行事>

4月	入学式(横浜 YMCA カレッジグループ合同) 保護者会 新入生オリエンテーション/全学年合同ガイダンス 始業式
5月	宿泊セミナー
6月	スポーツデイ(横浜 YMCA カレッジグループ合同)
7月	施設見学 七夕
8月	2年生:保育園実習 専門学校体育大会
9月	総合臨床実習 前期授業の紹介
10月	横浜 YMCA カレッジグループ教職員研修会(横浜 YMCA カレッジグループ合同) 横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーラン(横浜 YMCA カレッジグループ合同)
11月	ウエルカムフェスタ(学園祭) 卒業研究発表会
12月	クリスマス礼拝(横浜 YMCA カレッジグループ合同)
1月	臨床実習 I 自助具発表会
2月	後期授業の紹介
3月	新4年生実習セミナー 卒業式(横浜 YMCA カレッジグループ合同)

## 6. 学生の生活支援

### <学生への支援状況>

担任制としており、前期・後期に全学生を対象に個人面接を行い、学生の把握、指導を行います。また問題や困難など相談したい時は随時、面接を行い問題の解決を図ります。早期解決することにより、退学を防いでいきます。

## 7. 学生納付金・修学支援

### <学費について>

学 科	授業料（年額）	実習費	施設費	入学金
作業療法科	1年 1,000,000円	250,000円	250,000円	300,000円
	2年 1,000,000円	250,000円	250,000円	
	3年 1,000,000円	250,000円	250,000円	
	4年 1,000,000円	250,000円	250,000円	

※入学生は、初年度に300,000円を手続き時にお支払いいただいております

※分割納入第1回／新入生の場合は、入学手続き時、進級時は各年度開始前の3月中旬まで

※分割納入第2回／各学年、7月中旬まで。

※その他の費用に関して／教科書代、教材費、外部実習経費等の学生諸経費は入学時別途納入となります。詳細は、入学決定後ご案内致します。（年間 約20万円）

### <修学支援について>

#### 1) 横浜YMCAカレッジグループの専門学校奨学金

最終学年へ進級の際に、それまでの学業成績・日常生活・ボランティア活動等において、総合的に最も優秀であった学生を選出し、下記の通り奨学金を給付します。

内 容：月額20,000円を1年間（12ヶ月）給付する。（返還義務なし）

選考基準：入学からの学校生活において他の学生の模範となる者。

選考方法：YMCAカレッジグループにおいて選考する。

#### 2) 日本学生支援機構奨学金制度

この奨学金は貸与となり、返還義務のある奨学金制度となります。

・貸付対象者：日常生活・成績共に優秀な学生で、経済的理由により修学に困難がある者。

・奨学金種類別募集人数と貸付金額

第一種奨学金（無利子貸付）

自宅通学の場合：月額30,000円または53,000円

自宅外通学の場合：月額 30,000 円または 60,000 円  
第二種奨学金（きぼう 21 プラン）

※有利子貸付

月額 30,000 円・50,000 円・80,000 円・100,000 円・120,000 円より選択可能。  
利子上限…年利率 3 %。

※日本学生支援機構奨学金の予約採用済の方は、入学後に進学届の提出等を行うと正式に奨学生として採用となります。新年度オリエンテーションにて、内容は確認します。

### 3) その他奨学金

作業療法科には、各都道府県の修学資金貸付制度があります。

### 4) 学友会

入学した学生が、入学後その学生生活を完遂し自己研鑽することを目的として、横浜 Y M C A 専門学校学友会が設置されています。

主な事業として、

- ①奨学金や継続授業料貸与のための積み立て
- ②学生および保証人に対する保証と学業相談

## 8. 学校の財務

下記のアドレスにて（横浜 Y M C A ホームページ）情報公開

<http://www.yokohamaymca.org/about/johokokai.html>

「学校法人横浜 Y M C A」の情報公開

2018 年度貸借対照表

2018 年度決算資金収支計算書

2018 年度事業消費収支計算書

## 9. 学校評価

<自己評価・学校関係者評価委員会記録>

下記のアドレスにて（横浜 Y M C A 学院専門学校ホームページ）情報公開

<http://www.yokohamaymca.ac.jp/gakuin/>

## 学校評価委員及び教育課程編成委員会 議事録

日時：2019年3月29日(金)13:00~14:40

会場：横浜 YMCA 学院専門学校 6階 601教室

出席者：加藤智也、奥原孝幸（神奈川県立保健福祉大学）、  
生井知三校長、青木一弘教務部長、三浦美紀学科長

委任状：金山桂、星竜平

列席者：高橋博美、名古屋和茂、宮田千恵子（記録）

### 【 内容 】

- I. 校長より、委員会の主旨説明。
- II. 教務部長より各委員会の前回協議内容を説明（別紙参照）。
- III. 討議

#### 1. 学校現状について

(校長より)

・在籍学生数は今年度 57 名でスタートしたが、次年度は 49 名（本来であれば 80 名程度の在籍が望ましい）。

(教務部長より)

・学力向上のための取り組みは、一昨年は文章検定受験、作業療法研究基礎という新科目開設、次年度より入学前学習プログラム(クラッシー)を導入。

(委員より)

- ・基礎学力に関して、平均的学力は変わらないが昨年度頃より幅が広がっている印象有。
- ・中学高校時代より基礎学力が身につけておらず、やっつけ仕事の的に勉強を済ませている学生が増えている。授業をしても、5~6年以上前よりぐっと学力低下を感じている。
- ・成績上位養成校であっても、OT に対するモチベーションが低い、対人援助職に向かないなどの学生が増え、1割程度が休学している。
- ・社会に求められているかどうか=診療報酬に左右される。作業療法士は社会に求められている職業だから養成すべきというセールスポイントよりも、YMCA の理念に基づいた職業人を養成するスタンスで良いのではないか。

(列席者より)

- ・授業以前に教務とのやりとり（手続きなど）でも手間がかかる状況。
- ・勉強に対して頑張りたいと思っても、字の書き方、道具の使い方などをマンツーマンで教える必要がある。そうしないと学生に見捨てられ感情を抱かせてしまうため、介入の度合いが難しい。

#### 2. カリキュラム等改善検討プロジェクトについて

(学科長・列席者より)

・各部会についての概要説明（別紙参照）。大きなポイントは、総単位数を 101 単位程度まで縮小、臨床実習において地域・訪問領域が追加、実習方法として OSCE 導入の可能性あり。

(委員より)

- ・実学主義に陥らないように、一般教養科目は OT 教員が社会人教育に結び付けて教えることが必要なのではないか。
- ・臨床実習に出る以上、学生は目先の技法、つまり実学に偏らざるを得ない状況があるため、バランスが必要。

(列席者より)

- ・実習前後の学内の評価を今後実施するかどうかについて、国の方針として現段階では未確定。(2020 年度入学生より)

### 3. その他

- ・3 年制過程について、高卒 3 年は厳しいが、社会人向けであればいいのではないか。
- ・YMCA 独自プログラム案として、昔ながらの先入観のないコミュニティをつくるいろいろなプログラムがあってもいいのではないか。
- ・一般教養科目は成績をつけない。
- ・現場で求められている学問と国家試験で求められている学問は異なる、ゴールが 2 つあるのに、達成目標をどこに持っていくのか。
- ・医療に縛られない YMCA の取り組みを学生に伝えられるプログラムに組み込めないか。
- ・医療以外で働くモデルを教員が示していけるとよい。YMCA で OT を雇えないか。

以上

文責：宮田